

# 私のモチーフ

## 風の記憶

会員 榎本 敬子

原稿を書くにあたり今迄の会誌を見直しました。初入選が第十九回展。五十年余り何を描き続けて来たのだろう。疑問もあり整理する事としました。仕事を続けながら子育て看護

等の多忙な日々を送る中で、描き続けたという夢を持ち続けていたのか、モチーフは、その年代の生活に より添ったものを選んでいきます。「身近な風景」。入選から三十代半



▲ 「浜の一隅」

ば位のモチーフです。紀の川河口に海の見える風景、堤防のある風景等自宅周辺の河口風景を描いています。

「回転木馬」。

子供の幼い頃、度々遊びに行つたデパート屋上や公園、遊園地で木馬に乗って遊ぶ子供達との出合いです。木馬館の装飾。馬や馬車に乗って大人に手を振る子供の動作を見守る親達。メランコリーやドラマを感じ数年あちらこちらの遊園地に足を運びました。木馬の回る動きや子供等の人物の表現が難しく、デッサン不足を思い知らされました。

「水族館」。子供の成長に伴い度々水族館を訪れました。うす暗い照明、冷たく感じる館内、大きな水槽の中、照明に輝きながら群れ離れながら泳ぐ魚群。ガラスに身をつけて見入る



▲ 「回転木馬」

子供。見守る親。光と影、静と動、魚や人のフォルム。面白く楽しく数年描き続けました。

「水槽のある部屋」。勤務校の理科室で取材したものです。授業のない時訪れると、次の授業を待つて教卓の上には実験用具や薬品のビン、顕微鏡、季節の草花等さまざまな物が置かれています。準備室には標本や模型、器など不思議に思えるものが



◀ 「水槽のある部屋」



◀ 「浜辺一隅」



◀ 「風の記憶」

たくさん並び、面白く感じて度々取材させてもらいました。水槽の魚や魚拓なども描き組み合わせました。

「浜の一隅」。退職後、モチーフを漁港に移しました。風や太陽や海の色を楽しみながら、度々ドライブを兼ねて出かけました。紀伊半島には漁港が、九十四カ所もあり大阪南端の漁港をいれると一生訪ねきれない位です。海風、太陽、折々の漁港のにぎわいや香り、時を忘れ、何か面

白いものに響いてくるものはないかと出会いを求めて歩き回ります。写真の一枚は小屋の片隅に追いやられ雑然と積み重ねられてひっそり置かれていた漁具達です。素材の違うものフォルムやマチエールを面白く感じ構成しました。

「浜辺一隅」。くずれ捨てられていくようにたたずむパレットを船着き場の近くの堤防で見つけました。朽ちて倒れる寸前です。板の並びの変

化や全体のフォルム、マチエール等を面白く感じ、網、カゴ、浮き玉等漁具を組み合せ、背景を船や砂丘、海等に変えながら数年描きました。

「風の記憶」。モチーフは浜の一隅等同じ所で取材しています。面白い焼却炉があると聞き、その漁港を訪ねました。波止の片隅でポツンと立っている古い大きな焼却炉。使われなくなっただけ分たっているようです。焼けこげた炉は太陽にさらされ

微妙で複雑な色やマチエールをしています。形の面白さ。マチエールと太陽の下で異なって見える金属の色の変化。以来季節や時間、背景や組み合わせる漁具等を変えながら構成して数年描き続けています。湾岸も防災上整理されて来ました。次の出会いを求めて歩き続けたいと思います。